

基本情報

科目名	教育原理
時間割コード	0125900601
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第1学期
曜限	月 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	桑嶋 晋平
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
桑嶋 晋平

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>この授業では、教育という概念やその理念・目的について学んだうえで、現代にいたるまでの西洋および日本の教育の歴史と思想をふりかえり、今日の教育がどのような歴史的背景を有しているのかを学ぶ。このことによって、教育にかんする基礎的・体系的な知識・技能を身につけるとともに、教育のもつ課題について探究し、問題を解決することのできるちからを培うことを目指す。そのために、この授業では、以下のことを目標とする。</p> <p>(1) 教育の理念・歴史・思想にかんする基礎的なことがらを理解し説明することができる。</p> <p>(2) 教育の理念・歴史・思想にかんする知識に基づいて、教育の意義や特徴を理解し、説明することができる。</p> <p>(3) 教育とはなにか、よい教育とはなにかについて、自分自身のかんがえをあらわすことができる。</p> <p>これらの目標へと到達することで、基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、論理的・学際的思考力を涵養しつつ、課題を探究し問題を解決できる能力を身につけることを目指す。</p>
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の計画は、受講者の数およびニーズに応じて一部変更する場合がある。</li> <li>・授業中にフォームなどを持ちて課題にとりくむ場合がある。可能なかぎり、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなどの情報機器をもって参加すること（所有していないなどの場合は個別に対応するので申し出ること）。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後の小レポート（30%）および学期末試験（70%）の総合成績で評価する。</li> <li>・基礎的なことがらへの理解の度合い、設問にたいする理解度および解答が妥当性、論理性におおじて評価する。</li> <li>・毎時の小レポートについては、次回授業で全体に向けてコメントする。授業中にとりくんだ課題やその発表については、授業内で適宜コメントなどフィードバックをおこなう。</li> </ul>
テキスト	教科書は使用しない。毎回の授業で使用する資料を配布する。
参考文献	参考書については授業ごとに適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
・この授業では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、発表などをとりいれる。実施する回ごとに指示する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	受講ガイダンス / 授業全体の概要をしめす。	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
2	「教育」とは何か / 教育の理念および目的について学ぶ。	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
3	「教育」とは何か / 教育概念の歴史的な変遷	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
4	教育の思想と歴史 / 前近代の共同体における人間形成	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
5	教育の思想と歴史 / 前近代から近現代にいたる子ども観の変遷	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	

授業計画

・この授業では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、発表などをとりいれる。実施する回ごとに指示する。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
6	教育の思想と歴史 / 近代家族と教育とのかかわり	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
7	教育の思想と歴史 / 近代教育の成立とその思想	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
8	教育の思想と歴史 / 新教育の思想と実践	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
9	教育の思想と歴史 / 近代教育批判における教育のとらえなおし	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
10	近代日本における教育の思想と歴史 / 前近代のこの国の教育および近代教育の受容過程	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
11	近代日本における教育の思想と歴史 / 大正新教育の思想と実践	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
12	近代日本における教育の思想と歴史 / 総力戦体制と教育および戦後の教育改革	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
13	近代日本における教育の思想と歴史 / 50年代から高度経済成長期にかけての教育の歴史・思想・実践	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
14	近代日本における教育の思想と歴史 / 臨教審以後の教育改革と教育問題	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	
15	まとめ / 授業をまとめ、現代教育の諸問題	・予習・復習については、毎時の授業で指示する(各回につき、事前学習:2時間、事後学習:2時間)。	

基本情報

科目名	教職論
時間割コード	0126400701
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	嶋 政弘
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
嶋 政弘

詳細情報

授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ディプロマ・ポリシーに示された能力の育成を意識した内容・展開を目指す。</li> <li>2 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。</li> <li>3 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。</li> <li>4 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。</li> </ol>
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ペアによるディスカッションをするため, ペアを作って着席する。</li> <li>2 すべてペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。</li> </ol>
評価方法	ディスカッションへの参加40%, 期末試験60%で評価する。 再試験は実施しない。
テキスト	使用しない。
参考文献	毎回, 資料を配布する。参考資料については, 授業の中で随時提示する。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
<p>前半は, 教員に求められる資質と意識を中心とした, 教職に関する現状と課題について, 最近の事例をもとに, ディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進める。</p> <p>後半は, 理想の教育を求めて取り組んでいる国内の実践例や, 世界の先駆者として教育改革に取り組んでいるフィンランドを例に, これからの教育や教師像について, 資料を基に, 自分なりの考えを導き出すような展開にする。</p> <p>なお, 事前・事後学修のうち, 事前学修については, 個人で行うことは難しいと考えるが, 事後学習については, 講義で疑問に感じたことや発展的なことについて調べることを指導する。</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	教職とは何か 教師の役割と使命感		
2	教職の意義 これまでに会った教師を参考に, その意義について考える		
3	理想の教師像 聖職者・労働者としての教師像		
4	教師像の変化 文学作品・テレビドラマにみられる教師像の変化		
5	教員の服務義務 法的義務と現状		
6	校務分掌と教員の多様な仕事と多忙化		
7	教師間の仕事量の不均衡と公務員制度。		
8	一人一人の児童・生徒を守る教師		
9	研修とスキルアップ		
10	国内における実践例		
11	国内における実践例		
12	理想の教育を目指して(フィンランドにおける教育改革)		
13	理想の教育を目指して(フィンランドにおける教育改革)		

授業計画

前半は、教員に求められる資質と意識を中心とした、教職に関する現状と課題について、最近の事例をもとに、ディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進める。

後半は、理想の教育を求めて取り組んでいる国内の実践例や、世界の先駆者として教育改革に取り組んでいるフィンランドを例に、これからの教育や教師像について、資料を基に、自分なりの考えを導き出すような展開にする。

なお、事前・事後学修のうち、事前学修については、個人で行うことは難しいと考えるが、事後学習については、講義で疑問に感じたことや発展的なことについて調べることを指導する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	理想の教育を目指して（フィンランドにおける教育改革）		
15	教職への道		

基本情報

科目名	教育行政論
時間割コード	0125900801
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	嶋 政弘
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
嶋 政弘

詳細情報

授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ディプロマ・ポリシーに示された能力の育成を意識した内容・展開を目指す。</li> <li>2 教育行政の基本概念を理解し、教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。</li> <li>3 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則、及びその意義を理解する。</li> <li>4 学校教育における具体的な事例について、その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。</li> </ol>
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。</li> <li>2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。</li> </ol>
評価方法	ディスカッションへの参加40%、期末試験60%で評価する。 再試験は実施しない。
テキスト	使用しない。
参考文献	毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
<p>学校教育における様々な場面において、まず、その運用の実態と問題点に視点を向け、次に、その根拠となる関連法規や資料を判断基準として、実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。</p> <p>なお、事前・事後学修のうち、事前学修については、個人で行うことは難しいと考えるが、事後学習については、講義で疑問に感じたことや発展的なことについて調べることを指導する。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	教育行政 教育委員会の組織・機能		
2	教育行政 教職員の人事権		
3	教育行政 学校選択制の拡大		
4	学校組織 校長の職務・権限と職員会議の機能		
5	学校組織 （校長、副校長、教頭の資格要件とその緩和）		
6	学校組織 教頭・副校長の職務		
7	学校組織 主任制度		
8	学校組織 主幹教諭・指導教諭		
9	養護教諭の職務 歴史的変遷		
10	養護教諭の職務 職務の変化		
11	教育無償化		
12	教員の服務と待遇		
13	教育課程 学習指導要領		
14	教育課程 教科書		
15	教育課程 特別支援教育		

## 基本情報

科目名	発達心理学
時間割コード	0126210601
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第1学期
曜限	木 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

## 担当教員情報

教員名
水間 宗幸

## 詳細情報

授業の目的・到達目標	基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。
履修上の注意事項	予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を一読した上、分からない単語などを調べておくこと(2時間)。復習時には、ノートをまとめ、講義の中で扱われた理論やキーワードを自分のことばで説明できるようになっておくこと(2時間)。
評価方法	学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する(100%)。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。
テキスト	『新・プリマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房
参考文献	講義過程でも適宜紹介の予定
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

## 授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス		
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係		
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い		
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動		
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり		
6	ことばとコミュニケーションの発達		
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響		
8	仲間関係とこころの理解		
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの		
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題		
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方		
12	発達の多様性の理解～発達のつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感		

## 授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成		
14	成人期から老年期の発達と課題		
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援		

## 基本情報

科目名	特別支援教育総論
時間割コード	0126400901
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

## 担当教員情報

教員名
水間 宗幸

## 詳細情報

授業の目的・到達目標	特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。
履修上の注意事項	予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおき、復習時にはキーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。
評価方法	試験で評価する(100%)。なお試験のフィードバックについては、希望者に個別に口頭で評価内容を伝える。
テキスト	はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版 (有斐閣アルマ)
参考文献	「発達障害の子どもたち」「発達障害のいま」とともに杉山登志郎、講談社現代新書。その他、適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

## 授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」		
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方		
3	知的機能などに制約がある子どもの理解と支援		
4	運動機能などに制約がある子どもの理解と支援		
5	見え、聞こえなどに制約がある子どもの理解と支援		
6	読み書き計算などに制約がある子どもの理解と支援		
7	注意集中力などに制約がある子どもの理解と支援		
8	社会性の発達などに制約がある子どもの理解と支援		
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解		
10	教育課程の中の特別支援教育の理解		
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて		
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解		
13	不登校の理解と支援		
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援		

## 授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解		

基本情報

科目名	教育課程論
時間割コード	0126401001
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2022年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	桑嶋 晋平
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
桑嶋 晋平

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>この授業では、学校での教育活動を計画し実践し評価していくための基礎的な知識や技能について学ぶとともに、教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントをおこなっていくための実践的なことから培うことを目的とする。</p> <p>そのため、この授業では、以下のことを目標とする。</p> <p>(1) 教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解し説明することができる。。</p> <p>(2) 教育課程編成の基本原則、ならびに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し説明することができる。</p> <p>(3) 教育課程の基本原則や編成の方法をもちいて、教育課程の編成をおこなうことができる。</p> <p>これらの目標へと到達することで、基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、論理的・学際的思考力を涵養しつつ、課題を探索し問題を解決できる能力を身につけることを目指す。</p>
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の計画は、受講者の数およびニーズに応じて一部変更する場合がある。</li> <li>・ 授業中にフォームなどを持ちて課題にとりくむ場合がある。可能なかぎり、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなどの情報機器をもって参加すること（所有していないなどの場合は個別に対応するので申し出ること）。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後の小レポート（30%）および学期末試験（70%）の総合成績で評価する。</li> <li>・ 基礎的なことからへの理解の度合い、設問にたいする理解度および解答が妥当性、論理性において評価する。</li> <li>・ 毎時の小レポートについては、次回授業で全体に向けてコメントする。授業中にとりくんだ課題やその発表については、授業内で適宜コメントなどフィードバックをおこなう。</li> </ul>
テキスト	教科書は使用しない。毎回の授業で使用する資料を配布する。
参考文献	（小・中・高）『学習指導要領』 上記以外の参考書については授業ごとに適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
・この授業では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、発表などを取り入れる。実施する回ごとに指示する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	受講ガイダンス・教育課程とはなにか	・ 予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
2	教育課程をめぐる法と行政	・ 予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
3	教育課程編成と教師	・ 予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
4	教育のメディアとしての教科書	・ 予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
5	教育課程と学校・学級の空間	・ 予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	

授業計画

・この授業では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、発表などをとりいれる。実施する回ごとに指示する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	教育課程の構成要素と編成原理	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
7	近現代日本の教育課程の歴史	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
8	学力とはなにか	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
9	学力保障と教育課程	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
10	教育における質と平等	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
11	子ども理解と教育課程	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
12	学習評価と教育課程の評価	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
13	諸外国の教育課程	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
14	隠れたカリキュラム	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	
15	授業のまとめと今日の課題に応じる教育課程の在り方	・予習・復習については、毎時の授業で指示する（各回につき、事前学習：2時間、事後学習：2時間）。	